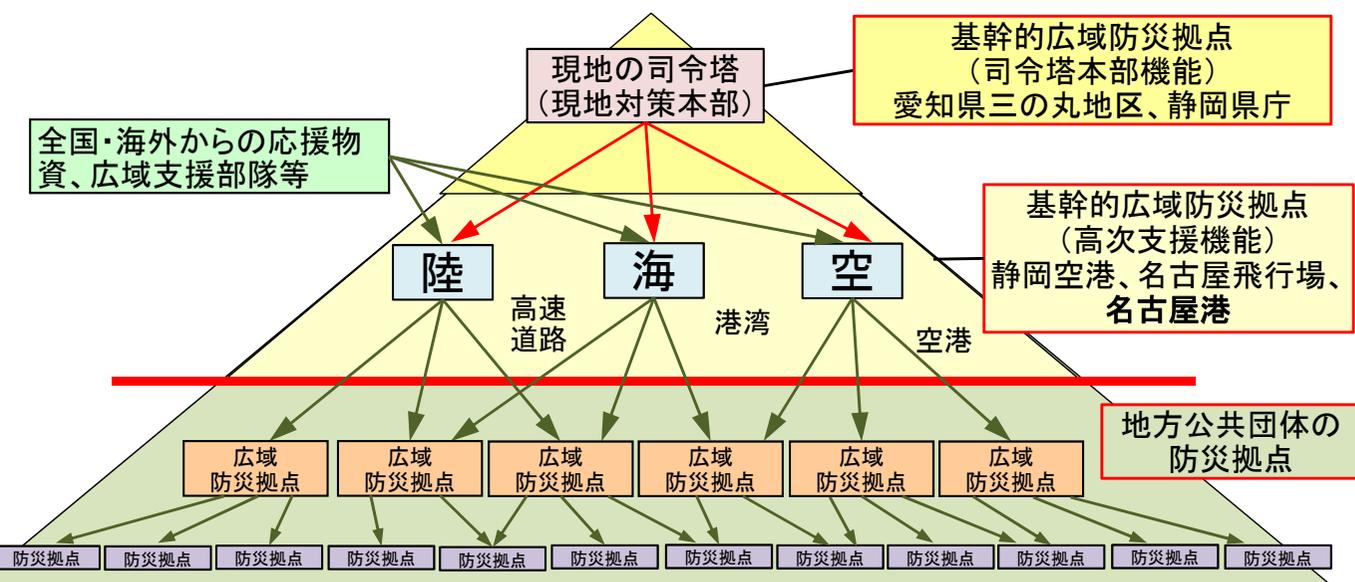


名古屋港における基幹的広域防災拠点の検討状況

1. 中部圏全体における基幹的広域防災拠点の配置検討

「中部圏地震防災基本戦略(最終とりまとめ)」(H24.11)において、基幹的広域防災拠点(司令塔本部)として愛知県三の丸地区、静岡県庁、基幹的広域防災拠点(高次支援)として静岡空港、名古屋飛行場、名古屋港が位置付けられた。

広域防災拠点のネットワークイメージ図



中部圏における防災拠点の広域的なネットワークを形成するための防災拠点の配置

- 基幹的広域防災拠点(司令塔本部機能)**
 - ・司令塔本部機能を有する拠点
- 基幹的広域防災拠点(高次支援機能)**
 - ・広域防災拠点を支援する機能を有する拠点。
 - ・空港、港湾を活用し、発災直後から極めて広い範囲をカバー。
 - ・海外からの支援物資・人員も受入れ、広域を支援。
- 広域防災拠点**
 - ・高次支援の基幹的広域防災拠点と連携した物資の受け取り、国の広域支援部隊の一次参集拠点。
 - ・県域を越えて、国と県が協力して活動する拠点。

基幹的広域防災拠点および広域防災拠点の配置



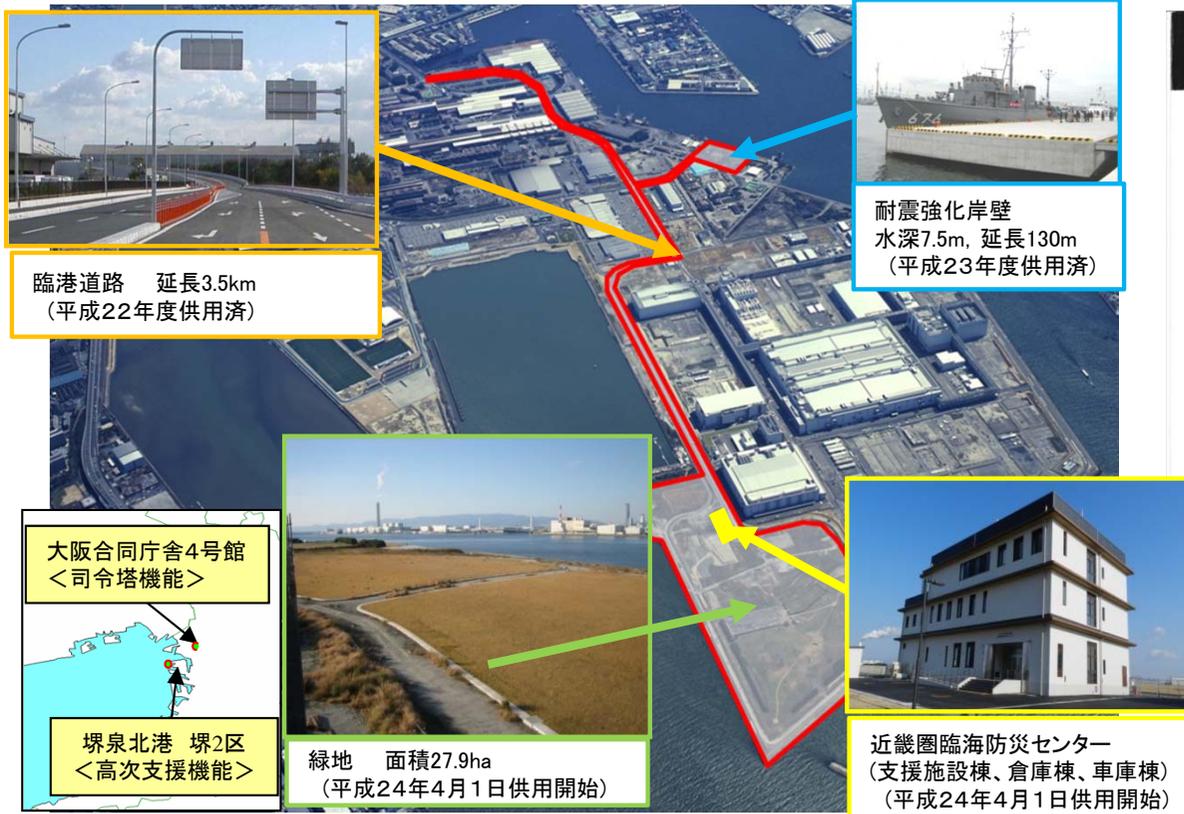
- 基幹的広域防災拠点
 - 司令塔本部機能
 - 高次支援機能
 - ・広域防災拠点の支援
 - ・広域災害対策活動の拠点
- 広域防災拠点
 - 拠点配置範囲 (半径概ね5km)

2. 臨海部における基幹的広域防災拠点の整備事例

臨海部における基幹的広域防災拠点は、近畿圏(堺泉北港 堺二区)と首都圏(川崎港 東扇島地区)に整備されている。
 複数の都道府県に被害が及ぶような大規模災害発生時において、国が自ら拠点運営を行い緊急支援物資輸送の中継拠点や広域支援部隊の一次集結地、ベースキャンプとしての機能を担う。

<近畿圏基幹的広域防災拠点>

- 大阪府堺市の堺泉北港堺二区に整備。
- 東南海・南海地震等の大規模災害発生時において、緊急物資の輸送活動等を円滑に実施するため、平成20年度より整備に着手。平成24年4月に供用。
- 平常時は堺市管理の緑地として市民に開放。



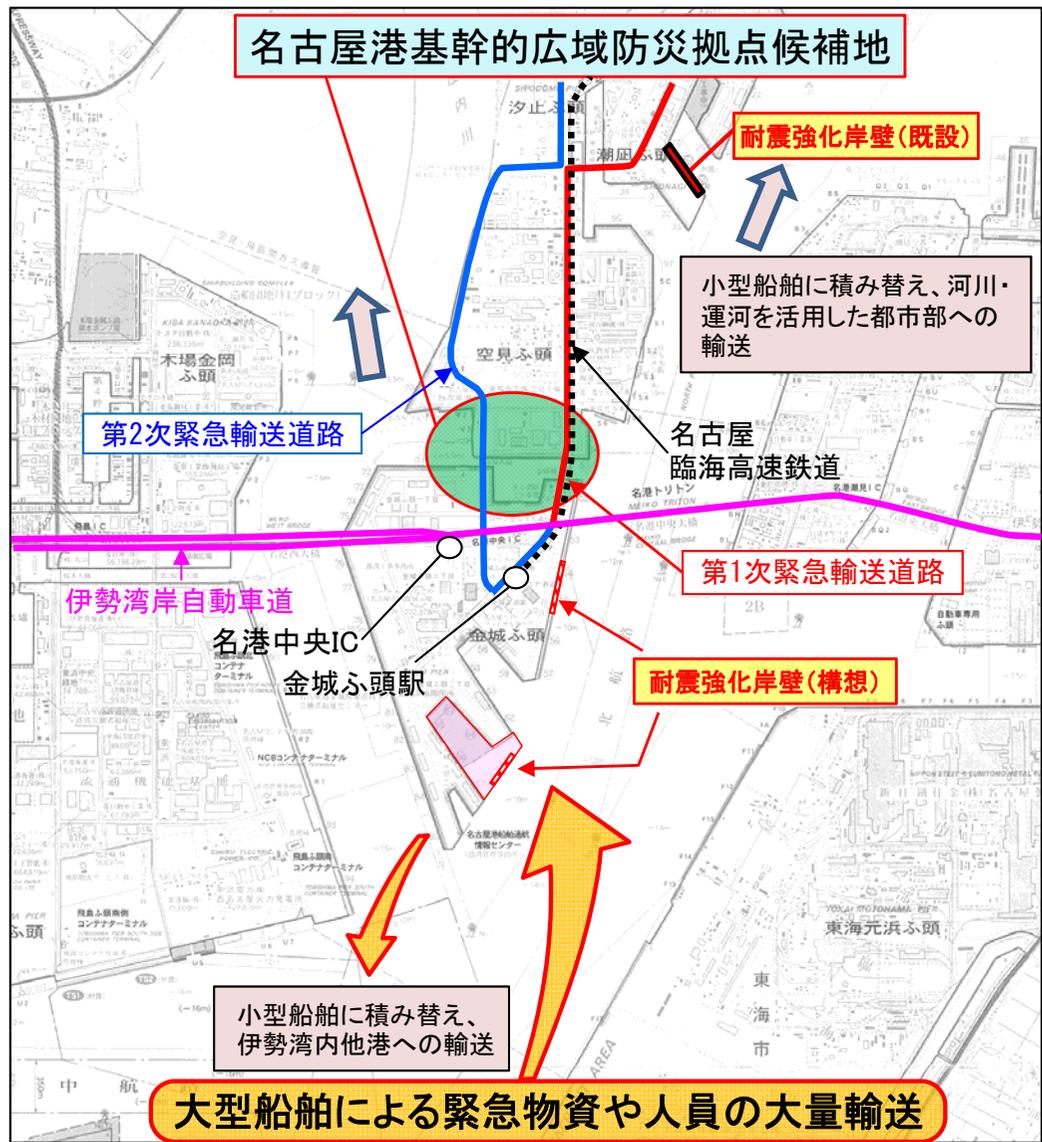
<首都圏基幹的広域防災拠点>

- 神奈川県川崎市の川崎港東扇島地区に整備
- 首都直下地震等の大規模災害発生時に、緊急物資輸送の中継拠点や広域支援部隊のベースキャンプとして機能させるため、平成20年度より、供用開始。
- 平常時は川崎市管理の緑地として市民に開放。



3. 名古屋港基幹的広域防災拠点(高次支援機能)の候補地

○中部圏広域防災ネットワーク整備計画(第1次案)において、名古屋港の基幹的広域防災拠点(高次支援機能)の整備候補地として、耐震強化岸壁との位置関係、航路啓開等の応急復旧活動、広域市街地への物資輸送の利便性、道路・鉄道とのアクセス性、発災時の関係機関の参集時間などから、金城地区を適地として選定している。



平常時、訓練施設としての利用イメージ



4. 名古屋港基幹的広域防災拠点(高次支援機能)に導入する機能

○名古屋港基幹的広域防災拠点に導入すべき機能として、『中部圏広域防災ネットワーク整備計画(第一次案)』に示されている機能及び港湾の立地特性や臨海部における基幹的広域防災拠点の先行事例である川崎港、堺泉北港に導入されている機能を踏まえ、下表の5つの機能を設定。

表—1 名古屋港基幹的広域防災拠点の導入機能

	導入機能	役割
メイン機能	緊急支援物資の中継・分配機能	各種交通基盤のネットワーク、情報ネットワークと連携した、被災地域外から被災地域内への緊急支援物資の中継、集積、荷捌き、分配等の役割を担う。
	広域支援部隊等の一次集結・ベースキャンプ機能	広域支援部隊（DMAT、自衛隊、海上保安庁、緊急消防援助隊、TEC-FORCE、警察災害派遣隊等）や指定公共機関（ライフライン事業者等）の一次集結・ベースキャンプのスペース及び施設を提供する。
サブ機能	海外からの緊急支援物資・支援人員の受入れ機能	海外からの緊急支援物資・支援人員を受け入れる役割を担う。
	災害医療支援機能	医薬品、医療用機材・設備の提供等の支援、搬送用ヘリコプターの確保・運用、ヘリポートの確保等、災害医療を支援する役割を担う。
	災害ボランティア活動支援機能	ボランティア活動を必要とする地域と災害ボランティアとの需給関係を調整するとともに、宿泊施設・移動手段の調整等の役割を担う。

5. 名古屋港基幹的広域防災拠点(高次支援機能)の検討スケジュール

